

事務事業	120	新宿駅周辺地区の交通環境整備推進					
章	4	にぎわいと魅力あふれるまち					
大項目	01	魅力あふれるまちづくり					
施策	01	魅力ある都市空間づくり					
事業内容							
目的	新宿駅周辺地区を回遊性の高い魅力ある都市空間とするために、歩行者空間の整備を促進するとともに、都市景観に配慮したまちなみの形成を図ります。						
対象・手段	対象：新宿駅周辺地区 手段：東西自由通路整備と連携した駅前広場の整備や、地下通路の整備等のそれぞれの計画について事業者間の調整を行ない誘導していきます。						
成果(事業が意図する成果)							
新宿駅周辺地区の整備を推進することにより、歩行者の回遊性の確保、交通混雑の解消、安全性の向上、市街地の活性化等が図られます。							
事業成果指標							
指標名	定義	目標水準					
新宿駅東西自由通路の都市計画決定	基礎調査を行って50%、都市計画決定をして100%	(平成19)	年度に				
		(100%)	の水準達成				
靖国通り地下通路延伸の都市計画決定	準備会を立ち上げて10%、都市計画決定をして100%	(平成19)	年度に				
		(100%)	の水準達成				
		()	年度に				
		()	の水準達成				
成果の達成状況							
	単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考	
事業成果指標	目標値 1	%	0.00	100.00	100.00	100.00	東西自由通路については、関係者間において整備に関する基本合意を行い、事業化が現実なものとなりました。都市計画については、引き続き検討していきます。 靖国通り地下通路延伸については、関係者とともに事業手法等を検討しました。民間開発との調整を行いながら、都市計画についても検討していきます。
	実績 1	%	0.00	50.00	60.00	80.00	
	= /	%	0.00	50.00	60.00	80.00	
	目標値 2	%	0.00	100.00	100.00	100.00	
	実績 2	%	0.00	10.00	20.00	30.00	
	= /	%	0.00	10.00	20.00	30.00	
	目標値 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成18年度	東西自由通路及び駅前広場の整備については、「第3回新宿駅周辺整備計画検討委員会・第4回幹事会」を開催し、幅員25mでの早期実現を確認しました。また、委員会では、自由通路を都市計画として位置づけることについての提案と、事業のスケジュール等の検討を行いました。 靖国通り地下歩行者道の延伸については、歩行者交通量調査等の具体的な現況調査を、東京都等関係者で協働して進めました。						
平成19年度	東西自由通路及び駅前広場の整備については、新宿駅周辺整備計画検討委員会を開催し、関係者間において自由通路の整備に関する基本合意を行いました。20年度より設計作業に着手します。 靖国通り地下歩行者道の延伸については、事業手法、事業計画等について、国・東京都とともに検討を進めました。新宿通りのモール化については、交通量調査、物流実態のヒアリング・アンケート調査等を行いました。						

部名称		都市計画部		課名称		都市計画課	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	0	0	0	0	
	人件費	千円	0	6,670	6,624	6,608	
	事務費	千円	0	70	75	52	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	0	6,740	6,699	6,660	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	0	6,740	6,699	6,660	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	0	6,740	6,699	6,660	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	0.00	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.00	0.80	0.80	0.80	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>新宿駅東口地区では、地下鉄副都心線が20年6月に開通し、また甲州街道では地下歩道の工事が行われるなど、都市のインフラ整備が進行しています。その中で東口周辺のまちづくりを推進するためには、靖国通り地下通路延伸や新宿通りのモール化による回遊性の確保等について、関係機関と調整していく必要があります。</p> <p>また、東西自由通路の事業化に伴い、通路に繋がる東西駅前広場の整備計画についても検討を行っていく必要があります。</p>							
評価基準に基づく評価と理由	達成度	2	東西自由通路の整備については、関係者間において自由通路の整備に関する基本合意を行いました。靖国通り地下歩行者道の延伸については、事業手法、事業計画等について検討を進めました。				
	実施の成果	2	東西自由通路は、関係者間で自由通路の整備に関する基本合意を行いました。靖国通り地下通路延伸については、事業手法、事業計画等について、検討を進めました。新宿通りのモール化については、交通量調査等の調査を行いました。				
	効率性	2	新宿跨線橋架け替え工事や地下鉄副都心線の関係事業者と総合的な意見調整を行うことは、回遊性の高い魅力的なまちづくりを進める上で効率的です。				
	行政の関与	3	新宿駅は、全国的にも利用者の多い主要なターミナル駅であり、関係する多くの事業者の調整を図るため、地元自治体として区が関与する必要があります。				
	妥当性	2	新宿駅周辺地区を回遊性の高い魅力ある都市空間にするために、地元や関係機関相互の調整を行ない、新宿駅東西自由通路の整備や地下歩行者通路の整備、新宿通りのモール化を推進していくことは、妥当です。				
	施策寄与度	3	新宿駅周辺地区の整備を推進することにより、歩行者の回遊性の確保や交通混雑の解消、市街地の活性化等を図ることは、新宿駅周辺の都市空間の快適性を向上させるために大いに寄与します。				
総合評価	平成19年度の評価はBです。新宿駅東西自由通路については、関係者間において自由通路の整備に関する基本合意を行い、靖国通り地下歩行者道の延伸については、事業手法、事業計画等について、国・東京都とともに検討を進めました。新宿通りのモール化については、具体的な調査に着手しました。新宿駅周辺の回遊性向上に向け、着実に進捗していることは評価できます。						B
	平成17から19年度の評価もBとします。靖国通り地下歩行者道の延伸も含め、都市計画について引き続き検討を行っていく必要がありますが、新宿駅東西自由通路については、平成20年度からの事業化が実現し、大いに評価できます。						過年度評価 18年度 B 17年度 B 16年度 15年度
改革方針							方向性
	<p>靖国通り地下通路の延伸及び新宿通りのモール化については、東口周辺の歩行者の回遊性向上を図るために必要不可欠であるので、整備を実現していきます。今後は自由通路から駅前広場、そしてまちへの円滑なアクセス、さらにまちの更新などを視野に入れた一体的な計画の策定を行っていきます。</p> <p>この事業は、第一次実行計画「63新宿駅周辺地区の整備推進」に引き継いで取り組んでいきます。</p>						1 現状のまま継続